

年頭寄稿「成長への起動」

日本銀行前橋支店長
相 良 雅 幸

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、日本銀行前橋支店の業務につきまして、ご支援、ご協力を賜り、誠に有難うございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年の群馬県経済は、海外経済の動向に様々な影響を受けた1年でした。春過ぎから夏場にかけて、輸送用機械を中心に輸出が増加傾向を辿ったことから、持ち直しの動きが続きました。もっとも、欧州の緩やかな景気後退や中国経済の減速長期化、日中関係の様々な影響などを反映して持ち直しのテンポが次第に弱まり、年末にかけて横ばい圏内の動きとなりました。

今年の群馬県経済を展望すると、海外経済の様々な影響が及ぶ中で、当面、横ばい圏内の動きが続くと見込まれます。もっとも、欧州債務問題や米国の「財政の崖」の帰趨、今後の日中関係など様々な不確実性がある点には、十分留意する必要があります。

この間、為替レートについては、リーマン・ショック以降、急速に円高化した水準で高止まる中、輸出や企業収益の押し下げ、企業マインドの悪化や海外シフトの加速などを通じ、経済全体に負の影響を与える可能性があるかと懸念されます。今後の為替レートの動向と企業行動への影響については、引続き注意を払っていく必要があります。

また、中長期的には、人口減少や高齢化という課題を抱えるもとの、成長力を高めていくための取り組みが必要です。企業が需要拡大の可能性を秘めた分野に経営資源を投入し、付加価値の高い財・サービスを生み出していくこと、そのために規制緩和などの環境整備を進めていくことが求められます。

成長力強化に向けた企業の取り組みを金融面から支援することも不可欠です。日本銀行では、低コストで十分な資金を調達できる金融環境を整備するとともに、成長力強化という点で、「成長基盤強化を支援するための資金供給」を続けるなど、金融緩和を強力に進めています。日本銀行前橋支店としましても、県内経済の発展に資するよう、安定的かつ円滑な業務運営を続けていく所存です。

今年の干支「巳」には「始まる、起こる」の意味があるそうです。今年が群馬県にとって成長への起動の年となること、あわせて群馬県経営者協会の益々のご発展と会員皆様のご多幸を祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。